

江湖新聞

第壹號

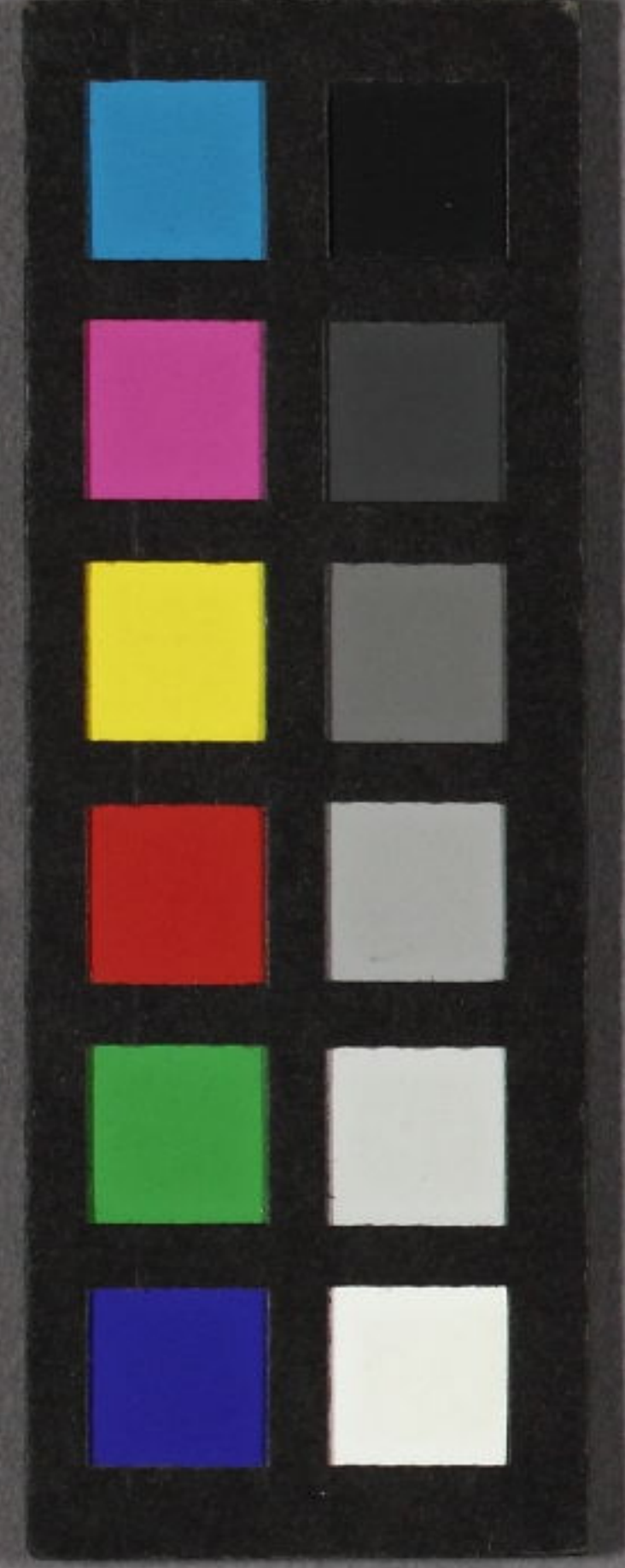
價八分

西垣文庫

文庫 10

7287

14



特 文庫10
7287
14



江湖新聞第十四号

慶應四年戊辰五月一日

横濱出板ヘラルト新聞の件

徳川家清處至振付先頃より勅使と北國法候とを掛合
りて右に候利の助漸く治定と及び前大君と適還
後勅勅を免し再び元の如く之小光榮を加ふべしと遂
決せし趣を伺ひ

○京都三職の一人三條大納を系統より来り廿二日江戸へ入
陣是ハ此程の徳川家を暴衝し遂に大難を起せる所之を
決定すべき為の大威權ある宰相ありといふ
○二十三日江戸より得る「新報」前大君江戸へ入陣

江湖

三十一



事既に決まり且京邦政府に決定の徳川家の領地は分く
 一と帝政府に取上りて残り二分は是迄に通り徳川家に屬す
 寸分一と之是此程系邦の氣強くて定まるる事ありと云
 ○前大君の性質きんせう伶俐れいれいの過ぎ且多海兵政事家あり之を
 忌おそむ懼おそるものありて今日の如き破滅はくめつ小及くと化日くわにちの如ごとく
 徳大君氣強く席を臨みて其大統領だいとつりやうとなり日本全州政府
 の為ために譲りたる事効績こうせきとなりぬべし

○ 同四月十九日廿日未日と事件付日光寺中藏

米津藤元家光藏

右之人會津藩士と中合惣勢ちゆうがうしやう貳千五百人程ほどは越後
 路みちへ發向はつかうす

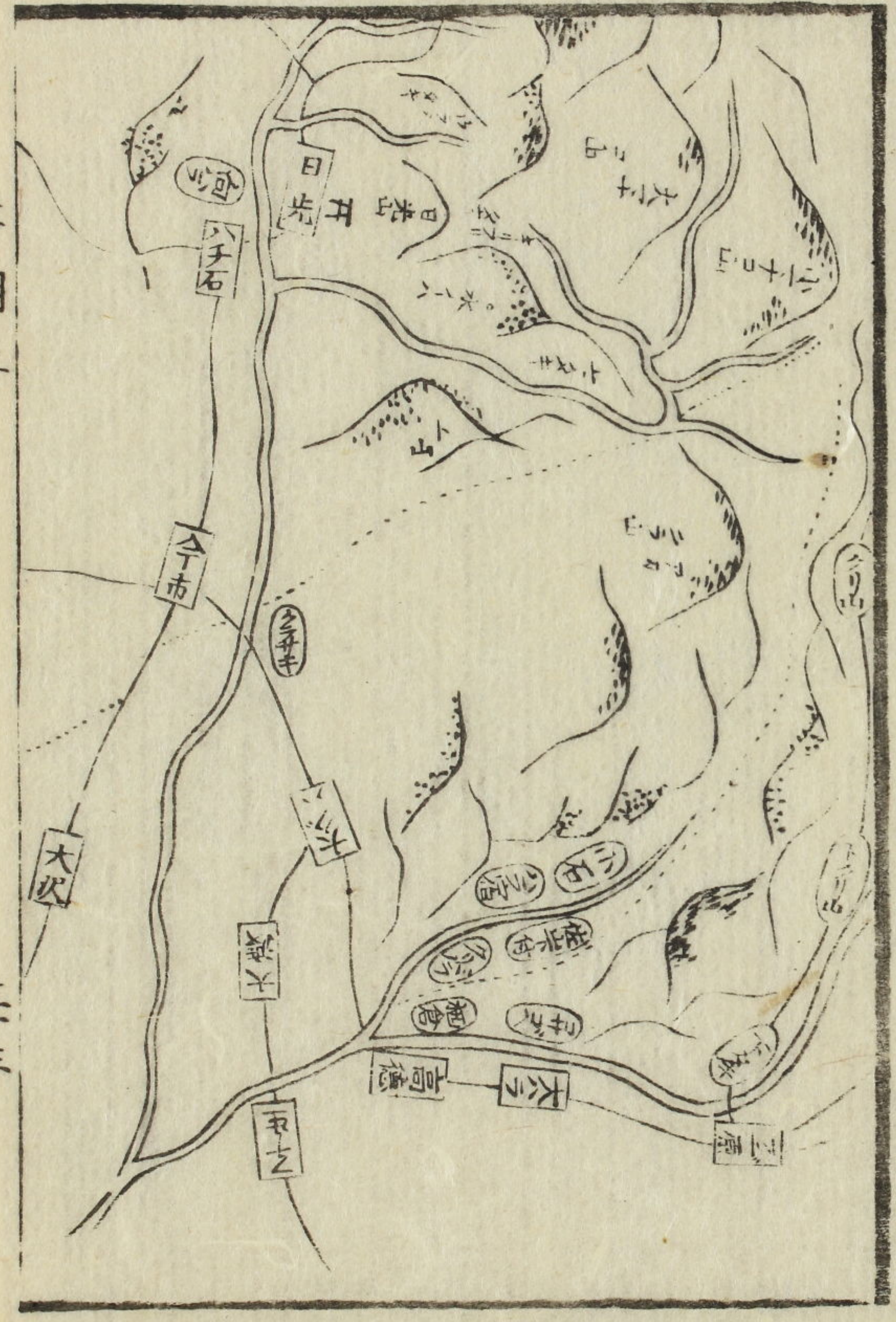
竹 股 貞 佐

千 坂 右 衛 門 尉

柿 崎 和 泉

同四月十九日會津藩發越後越山田内い花軍軍後田中
 藏人善大寺圭助と兵隊と凡千五百人程ほどは下野小佐
 藏村柄倉村日光寺殿河林松林垣切きりて迎むかへ官軍方
 井伊後堂長州土將と勢と越後と及および撈利羽三廿日

下野塩谷郡
近郷之圖



今市ゆて發ふ又勝利を得る此時會津藩日向
登之七外脱走之兵栗山城より外山下六方城より押寄河
内宮裏より城軍中より了る之疾之類日光より中城より

○
大目付に
赤目付に

徳川龜之助殿今廿九日辰刻西丸に以中
營らぬ候

大総督宮分以沙汰舟一揚中納言殿名代以城より成
りて龜之助殿に相續て儀別紙に通知
仕出の向
つらぬ箱の

四月

別紙

□□伏罪の上ハ徳川相續て義祖宗以来之功勞を以
て恩召格別と

殿より以て固安龜之助に以
仕出の事

但據此録より最ハ追

以沙汰の事

徳川龜之助殿御事奉今口

上様与尊稱

上様御事奉

前上様与尊稱

壬辰月

上様御事奉中は御本以家人月代不刺御事奉お達事奉明
朝日分當境に存せしむるに一月月代刺御事奉

壬辰月

甲府勅番御事奉柴田監物ハ甲州ハ官軍進入之旨守備せし

を唱入牢とお成し候ハ既前報之を記せり叔同人の女某
甲府勅番高田左衛門と云人の嫁し教人の子と後けり右妻
草丈左衛門父某と共に一甲州官軍御事奉一王臣とありしを妻
大之と云はし時首の姓しむる事なれば官軍とありし王臣と
あるも是れおられた己し人御事奉とて具得意候甘ん人の名
目し恥ぬ不忠不義の武士うれし我いなりしも武士の家御事奉
軍方の父ハ義の御事奉御事奉は御事奉は御事奉を全く甘んと思
ひ玉つり我此家より何うて父御事奉似ぬ不義の者よと人御事奉指
さす事御事奉いふ御事奉とそま御事奉御事奉子と御事奉御事奉
たうと近代の烈婦女御事奉とて皆人之を嘆賞せり世ハ

このぬ人わと小芳わとは男子わと女わとありはわと空わとにわと触わとびわとさわとるわとこ

○

仙わと基わとよりわと来わとりわとしわと客わとの後わと、仙わと基わと彦わとへわとのわとてわと會わと津わと退わと討わとの

物わと令わとありわとてわと既わと、九わと條わと殿わと津わと殿わともわとはわと誠わとありわと成わと右わとにわと擊わとつわとるわと薩わと摩わとのわと兵

隊わともわと凡わと三わと百わと人わと計わととわと威わとをわとふるわとひわと一わと雲わと仙わと基わと彦わとはわと殿わと翼わと幕わとの

士わと誠わと起わとりわとてわと右わと邊わとのわと人わと教わとをわと大わと守わと攻わと殺わとしわとるわと故わとをわと以わとてわとはわとあ

やわと仙わと基わと彦わとはわと秋わと田わと彦わとへわと移わとしわとてわとあわとらわとせわとしわとてわと秋わと田わと彦わとは

てわとのわと物わと仗わとのわとをわと招わと待わとつわとてわと擊わとつわとるわと家わととわと人わと教わとのわと困わと境わとへわと入わとるわと事

をわと防わとりわとむわとびわとしわとてわと此わと活わと畢わとしわとてわと其わとをわとあわとらわとせわとしわとてわと小わと方わと會わと津わと退わと討わとの

端わと蓋わと固わとまわとるわと事わととわとのわと事わとあり

